

2019年（平成31年）度

特定非営利活動法人 **子どもの森**

総 会 議 案 書



川をたのしく親しもう



昆虫カメラマンに挑戦



森のエコクッキングとドングリ育て



春（の野草）を楽しもう

日 時：2019年4月21日（日）9時30分～

場 所：森の学舎
もり まなびや

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
- 5 3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2018年度活動経過報告
 - II. 、 、 活動決算報告
 - 10 III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2019年度活動方針（案）
 - II. 、 、 活動計画書（案）
 - III. 役員改選（案）
- 15 7. 議長降壇
8. 閉会のことば

お楽しみ会（11：30～）

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成15年7月12日（土）13:00	子どもの森事務所
第2回通常総会	平成16年4月15日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第3回）	平成16年11月19日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第4回通常総会	平成17年5月8日（日）10:00	門川町商エコミュニティセンター APIO
第5回通常総会	平成18年4月22日（土）18:00	門川町中央公民館
第6回通常総会	平成19年5月20日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第7回通常総会	平成20年5月17日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第8回通常総会	平成21年4月25日（土）10:00	森の学舎
第9回通常総会	平成22年4月25日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第10回）	平成22年10月13日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第11回通常総会	平成23年4月24日（日）9:30	森の学舎
第12回通常総会	平成24年4月22日（日）9:30	森の学舎
第13回通常総会	平成25年5月6日（月）9:30	森の学舎
第14回通常総会	平成26年4月27日（日）9:30	森の学舎
第15回通常総会	平成27年4月29日（水/祝）9:30	森の学舎
第16回通常総会	2016年4月29日（金/祝）9:30	森の学舎
第17回通常総会	2017年4月29日（土/祝）9:30	森の学舎
第18回通常総会	2018年4月22日（日）9:30	森の学舎

報告事項Ⅰ. 2018年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（川をたのしく親しもう、昆虫カメラマンに挑戦、森のエコクッキングとドングリ育て、春（の野草）を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらうための啓発活動ができた。
- 10 ② 県北地域の親子が、11カ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験エコスクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらう啓発活動ができた。
- ③ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の土日活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- ④ Webページとfacebookにより、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

15

（1）農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

① 四季をまるごと体験エコスクール（第8期）

・実施日：5月19日、5月26日、6月16日、7月14日、8月5日、11月11日、12月15日
（2019年）2月23日、3月9日 計9日間

20

・実施場所：森の学舎、エコスクール麦畑、五十鈴川
・参加者：10家族19人（内小学校4年生～6年生は13人）
・スタッフ：延べ9人

25

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会
・助成等：子どもゆめ基金
・内容：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通じた自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し、将来の自然環境の守り手に育てってもらうために、11カ月の期間を通して、同じ参加者によるスクール形式で下記のことを実施した。

30

- 1) ネイチャーゲーム
- 2) 麦刈り・脱穀
- 3) ダンボールコンポストによる麦畑の堆肥づくり
- 4) イカダを作り川下りによる河川清掃
- 5) 川の生きもの調査、ビオトープの観察
- 6) 樹木の二酸化炭素吸収量の計算
- 7) ネイチャー工作
- 8) 海水を使つての塩づくりとニガリ採取
- 9) 麦畑づくり、麦種播き
- 10) 石臼による小麦挽き
- 11) パンづくり（イチゴ酵母とバター作り含む）
- 12) 椎茸菌駒打ち
- 13) 文集制作

35

40

スタッフが準備活動として、各回に実施する内容の準備や後片付け等を下記の通り行った。

5月20日：麦脱穀の準備

5月27日：海水汲み

45

7月8日：見本となるイカダ（スタッフ用イカダ）の作成

8月4日：試イカダ乗船

11月4日、10日：麦畑づくりの準備

② 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

森の学舎のほだ場に本伏せにしているホダ木から椎茸の収穫を行った。収穫した椎茸は、環境学習等のお昼に提供する味噌汁等の食材として利用した。

- 5 ホダ木は2010年と2011年に、コマ打ち（植菌）したものであり、朽くが進み椎茸の発生が大変少なくなってきた。そのため、四季をまるごと体験e co スクールで、環境学習の一つとして椎茸菌駒打ちを実施した。

(2) 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

10 ① 子どもの森1号地

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3m以上になっていて、その他種の樹木も人間の背丈よりも高くなっている。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていない。

15 ② GOCANの森

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m近くなり、ヤマザクラは花を咲かせている。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていない。

20

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けている。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了した。竹の活用として「四季をまるごと体験e co スクール」でのそうめん流しのレール、「森のエコクッキングとドングリ育て」での調理飯盒と器で使用する竹の伐採を行った。

25

(3) 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

30 ① 川を活用した自然体験交流（川をたのしく親しもう）

- ・実施日：7月29日
- ・実施場所：森の学舎と五十鈴川
- ・参加者：子ども18人（内幼児6人）、大人13人
- ・スタッフ：10人（内ネイチャーゲームリーダーは3人）
- 35 ・助成等：子どもゆめ基金
- ・内容：オリエンテーション
ネイチャーゲーム（音いくつ、ジクソーストーン）
川あそび（笹舟流し、そ~とのぞいてみよう、川虫探し、アメンボウの旅）
お楽しみそうめん流し（昼食）
- 40 ・準備：（7月15日）前年の台風による増水で壊れてしまった五十鈴川に昇り降りする道の補修
（7月28日）素麺流し竹レールの作成※4m×4本長さ微調整
そうめん湯で用簡易かまどの設置※2か所
川遊びの担当確認と事前体験確認
活動フィールドを目で確認できるように上流側と下流側にロープ張り
- 45 必要なものを川へ移動
フローティングジャケットの用意と更衣所の設置
雨に備えてテントを3張設置

② 森を活用した自然体交流（昆虫カメラマンに挑戦）

- 50 ・実施日：10月14日

- ・実施場所：森の学舎
- ・参加者：子供=11人、付き添い保護者=7人
- ・スタッフ：4人
- ・講師：新開孝氏（昆虫写真家、昆虫図鑑・絵本著者）
- 5 助成等：ビジネスパーソボランティア活動助成（大同生命厚生事業団）
- ・内容：新開さんの案内で、昆虫を探しながら森の学舎周辺を散策した。写真撮影にむいている昆虫が見つかったら、新開さんが、昆虫の名前や特徴を説明してくれた。森の学舎グラウンド→東側道路周辺→ecoスクール畑へと散策して、思い思いに昆虫の写真を撮った。約2時間30分の昆虫観察と写真撮影を行った。昼食後、プロジェクターで子供たちが撮影した昆虫写真をスライドショーで順次表示して、新開さんがコメントした。
- 10 参加者各自のお気に入りの写真は、後日に事務局より郵送した。
- ・準備：（9月24日）撮影した写真をプロジェクターで投影するために、部屋の暗幕としてダンボール板を光取り窓に貼り付け。グラウンドの草刈り。

15 ③ 竹を活用した自然体験交流（森のエコクッキングとドングリ育て）

- ・実施日：12月2日
- ・実施場所：森の学舎
- ・参加者：子ども7人（内幼児4人）、大人6人
- ・スタッフ：8人（指導者含む）
- 20 後援：宮崎県、宮崎県教育委員会
- ・助成等：子どもゆめ基金
- ・内容：エコクッキングのために、竹で食器等（飯ごう・食器・箸・鍋）を参加者自らが作る。
竹はバイオマス資源であり、その利活用の推進は、低炭素社会の実現に貢献することを、エコクッキングなどを通して学習する。参加者が作った竹飯ごうでの炊飯と竹鍋でのおかず作りを行なう。ecoスクールの塩作りでの副産物であるニガリを利用して豆腐を作る。作った豆腐は竹の器に盛り付ける。
竹を玉きりにして節を利用したポットに、腐葉土を入れてドングリを植える。竹のポットは、参加者が自宅で苗木に育て2年後に山へ戻す。樹木が私たちの生活において排出された二酸化炭素を吸収し私たちの生活に必要な酸素を供給してくれていること理解する。
- 25 準備：（11月3日、12月1日）焚き物の準備
竹の飯盒の試作り。
炊飯と野菜豚肉の重ね蒸焼きの試調理
竹を切り出して、10本の飯盒と20個の皿を準備
- 30

35 ④ 野草を活用した自然体験交流（春（の野草）を楽しもう）

- ・実施日：2019年3月24日
- ・実施場所：森の学舎と周辺地域
- ・参加者：大人=多数、子供=9人（内小学校就学前幼児2人）
- ・スタッフ：6人
- 40 講師：成迫平五郎氏（宮崎県環境保全アドバイザー・県北植物愛好会）
- ・助成等：子どもゆめ基金
- ・内容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし、ピザ）
収穫した野草は、カラスノエンドウ、スイバ、スミレ、ギボウシ、ヤブカンゾウ、ウバユリ球根、オオバコ、ツキシ、フキノトウ、セリ、ノビル、ヨモギ、ノカンゾウ、タネツケバナ、セイタカワダチソウ、ハコベ（ペンペン草）、コオニタビラコ（春の七草のほとけのぎ）、ヨメナ、タラ芽 他。
- 45 準備：（3月21日）下見と野草マップの作成

50 (4) 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業
実施できなかった。

(5) 活動の情報発信・啓発のための事業

① Webサイトとfacebookの運営

・実施時期：4月～2019年3月

5 ・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均2回のWebページ更新にて情報発信した。Facebookへは、年間40回の投稿を行った。

② 機関紙の発行

・発行月：6月

10 ・概要：子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信15号」をA4サイズ12ページで発行をして情報発信ができた。機関紙は、Webページからもダウンロードできるようにした。

③ 事業案内チラシの作成

・実施時期：各事業の開催1カ月～3カ月前

15 ・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれの事業や活動の案内チラシや参加者募集チラシを作成した。主に県北の図書館や近隣のスーパー等においてもらった。また、Webページからもダウンロードできるようにした。他の参加者募集の方法として、facebookと地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載をお願いした。eこスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の全小学校の小学4年生から6年生に、
20 延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約5000部を配布した。

(6) その他目的を達成するために必要な事業

① みやざき森づくりボランティア協議会の総会（6月17日）参加者：横山理事長、鶴戸副理事長

25 子どもの森が加盟して横山理事長が理事を務めている「みやざき森づくりボランティア協議会」の第17回通常総会がロキシーヒル（西都市）で開催されました。

② 黄色いレシートキャンペーン（2019年2月11日）参加者：横山理事長、横山理事

30 13年間にわたり支援を受けているイオン黄色いレシート・キャンペーンで、イオン日向店にて、キャンペーンの普及発展と子どもの森のPRを行いました。今回でキャンペーンへの参加は、6回目となります。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客さんに黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森リーフレットを渡して活動を地域に知ってもらうためです。

35 レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈されます。子どもの森は、2006年から12年間で100万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様ありがとうございます。

③ みやざき森づくりボランティア協議会主催の自伐型林業研究会

（2019年3月10日）参加者：横山理事長、井澤理事、横山理事

40 自分の持ち山を自分たちで伐採から搬出までをやっている人たちから、なぜやろうとするのか、どんな方法でやっているのか、森林にどんな影響があるのかなどを直接意見をお聞きして森林保全への思いを新たにすることができました。夫婦2人でやられている方もいます。若い人もいます。そのパワーをもらうことができました。視察場所は、延岡市北川町川内名「美人の湯」そばの杉山でした。

④ 森の学舎開放と視察訪問：横山理事が対応

45 （7月13日）西門川中学校の遠足で先生と子どもたちの計40名が中学校から「森の学舎」までの7.5キロを歩いてきてくれました。

（2019年1月24日）都城市PTA連絡協議会の会長さんと広報委員さんが、協議会の広報誌「つなぐ」に掲載するため視察取材に来てくださいました。

50 （2019年2月21日）佐伯地区流域林業活性化センターの委員さんたち14名が森の学舎に来てくださいました。大分県森林環境税を財源とした森林づくり提案事業の審査参考のための

研修会ということで、子どもの森が今まで取り組んできた活動についてお話させていただきました。

⑤ 森の学舎の環境整備

- 5 ・4月29日、30日、5月1日、4日～6日：参加数＝4人
薪置き場の竹屋根の痛みが酷く雨が漏れるようになったので屋根の交換をしました。
2日間かけてグラウンドの草刈りをしました。
森の学舎前の道を整備しました。
遮熱版を薪ストーブに設置するために薪ストーブを移動しました。
- 10 e c oスクール準備で麦はさ掛けを設置しました。
妖精の森での竹伐採をしました。
- ・6月2日、3日、8月26日、9月1日、2日：延べ参加者＝14人
グラウンドの草刈
- 15 ・11月24日、25日：延べ参加者＝8人
台風24号で倒木したイヌマキを撤去しました。側溝がイヌマキの倒木で壊れたましたが、門川町にて修理が行われた。
- ・12月9日：参加者＝2人
釜戸小屋に外囲炉裏を設置しました。

⑥ ビオトープ

猪が侵入して水路と水辺付近が荒らされていました。水路は水が流れるように修復をしました。
四季をまるごと体験 e c oスクール ~~(パンづくり編)~~ で、水辺のいきもの観察を行い自然環境の観察等を行いました。

3. 寄付金・助成金等

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

- ① 「川をたのしく親しもう」の事業費147.2千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、163.0千円でした。
- 30 ② 「森のエコクッキングとドングリ育て」の事業費81.0千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額と参加費収入の合計は、90.6千円でした。
- ③ 「春（の野草）を楽しもう」の事業費88.7千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が14.8千円と87.0千円の助成を受ける予定です。
- 35 ④ 四季をまるごと体験 e c oスクール（第8期）の事業費512.1千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が66.5千円と457.3千円の助成を受ける予定です。

(2) ビジネスパーソンボランティア活動助成（大同生命厚生事業団）

昆虫カメラマンに挑戦の事業費105.0千円（ボランティア評価除く）に対しての助成額は、100.0千円でした。

40

(3) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、ホームワイド出北店・マックスバリュース南延岡店/岡富店・ホームワイド財光寺店・イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2018年度は、77.6千円の商品券が寄贈されました。

45

(4) ろうきんNPO寄付

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄付先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄付額は100円以上（100円単位）です。お二人の方から計7.2千円の寄付がありました。

50

(6) 他寄付

横山理事長の各プログラムでの人件費（40,200円）が寄付されました。

4. その他

5

(1) 森づくりボランティア協議会

横山理事長が理事に就任しています。横山理事長の理事会参加は、8回の理事会開催で3回しか出席できませんでした。

10

(2) 参加者の声

広く地域に参加者を募集して開催した環境プログラムの中で、2018年度に新たに企画開催した2つのプログラムに参加した方の感想を一部抜粋します。

① 昆虫カメラマンに挑戦

15

・昆虫は、あまり好きではなかった。でも、今日の活動で、昆虫や虫の生活について知りました。まだ昆虫は苦手だけど、虫にふれあえてよかった。

・いろいろな撮影のやりかたがあつて凄かった。生物カメラマンになりたいです。

・キレイに撮ろうとしたけどぶれてしまって、けっこう難しかったです。いろいろな虫が撮れたので楽しかったです。

20

・いままで嫌いだったけど、この活動で虫が少し好きになりました。今日は楽しかったです。

② 森のエコクッキングとドングリ育て

・竹を使った食器作りや飯盒作り等、なかなか出来ない貴重な体験になりました。

・豆腐作りは初体験でした。きちんと固まっていて豆腐になっていました。とても美味しかったです。

25

竹飯盒のご飯も美味しかったです。おこげができていたらもっと良かったです。ドングリは昨年、芽が出なかった「マテバシイ」に再チャレンジしました。今度はどうかなあー？また参加します。ありがとうございました。

・とても貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。自然の大切さを、また体験しました。竹のお皿・お箸も大切に使います。また参加させていただきます。

30

・ここで五十鈴小学校の子供たちがシイタケ作りをやった事があるみたいなので、今小2の息子の学年でも何か皆でやって欲しいなあと思いました。初めての豆腐作り等楽しかったです。地区で竹の灯籠作り等しているので、地域の子供たちにバラエティを増やして欲しいなあと思ひたいと思います。

・ドングリの話は昨年聞いたのですが案外覚えているもので、見つけると「あーあんな事言ってななあ」なんて思いだせるものですね。ドングリ20種類（もしくは集められるだけ）手の平に乗せて比べたい。

35



四季をまるごと体験ecoスクール（左：開校、右：閉校）

2018年度事業経過一覧

実施日	活動名	内容/備考
4月		
7(土)	会計監査	
8(日)	理事会	
22(日)	第18回通常総会	
29、30、5/1、 4、5、6	森の学舎整備	ビオトープ保全、草刈り、ecoスクール準備、他修繕等整備
5月		
19(土)	①ecoスクール	開校式、ネイチャーゲーム、麦刈りとはさ掛け
20(日)	「ecoスクール」準備	海水汲み、麦脱穀の準備
26(土)	②ecoスクール	ダンボールコンポスト、麦脱穀と風選
6月		
2(土)、3(日)	森の学舎整備	草刈り、ビオトープ
16(土)	③ecoスクール	塩作り、ビオトープ観察
17(日)	加盟団体の総会	森づくりボランティア協議会
7月		
7(土)、8(日)	「ecoスクール」準備	竹伐り、コンパネ加工
14(土)	④ecoスクール	イカダ作り、ビオトープ観察
28(土)	「川をたのしく親しもう」準備	
29(日)	川をたのしく親しもう	
8月		
4(土)	「ecoスクール」準備	イカダ登口草刈
5(日)	⑤ecoスクール	河川清掃、川の生きもの調査
26(日)、9/2、3	森の学舎整備	草刈り
9月		
29(土)、30(日)	学舎キャンプ	※台風24号のため中止
10月		
13(土)	「昆虫カメラマンに挑戦」準備	
14(日)	昆虫カメラマンに挑戦	
11月		
3(土)	「森のエコッキングとどんぐり育て」準備	エコッキング
4(日)、10(土)	「ecoスクール」準備	麦畑整備
11(日)	⑥ecoスクール	麦畑整備、麦蒔き
24(祝)、25(日)	イヌマキのかたづけ	台風24号被害の復旧
12月		
1(土)	「森のエコッキングとどんぐり育て」準備	
2(日)	森のエコッキングとどんぐり育て	
9(日)	外囲炉裏作り	「森のエコッキングとどんぐり育て」のかたづけ
15(土)	⑦ecoスクール	環境学習、麦踏み、ネイチャー工作
2月		
11(祝)	黄色いシートキャンペーン	イオン日向店
23(土)	⑧ecoスクール	酵母作り、小麦粉作り
3月		
9(土)	⑨ecoスクール	パン作り、文集書き、閉校
10(日)	自伐型林業研修	みやざき森づくりボランティア協議会主催(延岡市北川町川内名)
21(木)	春を楽しもう準備	
24(日)	春を楽しもう	

※事務局(のみ)活動は一覧には未掲載

報告事項Ⅱ. 2018年度活動決算報告

2018年度 特定非営利活動に係る活動計算書
(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	59,000		正会員:11人×5,000、特別会員:4人×1,000
賛助会員受取会費	5,000	64,000	1人×5,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	124,400		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金 他
ボランティア受入評価益	623,683	748,083	宮崎県の最低賃金にて評価
3. 受取助成金等			
受取助成金		867,315	子どもゆめ基金、大同生命事業団
4. 事業収益			
自主事業収益		116,600	各プログラム参加費 他
5. その他収益			
雑収入		1,676	葉書換金、預金利息 他
経常収益計			1,797,674
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(給料手当・臨時雇賃金)	221,000		各プログラム
ボランティア評価費用	431,143		宮崎県の最低賃金にて評価
人件費計		652,143	
(2)その他経費			
修繕費	0		
諸謝金	56,000		各プログラム
印刷製本費	102,114		ecoスクールチラシ印刷(業者)、他事業はトナー代
旅費交通費	239,775		各プログラム、他事業すべて
通信運搬費	9,274		同上
消耗品費	290,847		同上
損害保険料	18,140		各プログラム
その他経費計		716,150	
事業費計		1,368,293	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(給料手当・臨時雇賃金)	0		
ボランティア評価費用	192,540		宮崎県の最低賃金にて評価
人件費計		192,540	
(2)その他経費			
修繕費	31,105		プリンター保守
旅費交通費	11,760		森づくりボランティア協議会総会出席 他
通信運搬費	44,060		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	63,959		薪ストーブ遮熱板・柵 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	4,270		総会
租税公課	200		印紙
施設管理費	167,270		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	7,500		前年度助成金減額
減価償却費	27,063		チャパーシュレッダー2台
その他経費計		360,187	
管理費計		552,727	
経常費用計			1,921,020
当期正味財産増減額			△123,346
前期繰越正味財産額			1,660,206
次期繰越正味財産額			1,536,860

各プログラム:「四季をまるごと体験ecoスクール(ecoスクール)」「川をたのしく親しもう」「昆虫カメラマンに挑戦」
「森のエコクッキングとドングリ育て」「春を楽しもう」

2018年度 事業別活動計算書

科目	四季をまるごと体験ecoスクール	川をたのしく親しもう	昆虫カメラマンに挑戦	森のエコクッキングとドングリ育て	春を楽しもう	森の学舎整備(ピオトープと竹林整備を含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	---	---	---	---	---	---	---	59,000	59,000
賛助会員受取会費	---	---	---	---	---	---	---	5,000	5,000
2. 受取寄付金									
受取寄付金	---	---	---	---	---	---	---	124,400	124,400
ボランティア受入評価益	101,705	46,062	20,636	56,749	36,113	169,878	431,143	192,540	623,683
3. 受取助成金等									
受取助成金	457,382	141,059	100,000	81,874	87,000	---	867,315	---	867,315
4. 事業収益									
自主事業収益	66,500	22,000	4,500	8,800	14,800	---	116,600	0	116,600
5. その他収益									
雑収入	---	---	---	---	---	---	---	1,676	1,676
経常収益計	625,587	209,121	125,136	147,423	137,913	169,878	1,415,058	382,616	1,797,674
II 経常費用									
(1)人件費									
賃金	138,000	36,000	0	30,000	17,000	---	221,000	---	221,000
ボランティア評価費用	101,705	46,062	20,636	56,749	36,113	169,878	431,143	192,540	623,683
人件費計	239,705	82,062	20,636	86,749	53,113	169,878	652,143	192,540	844,683
(2)その他経費									
修繕費	---	---	---	---	---	---	0	31,105	31,105
諸謝金	18,000	0	30,000	0	8,000	---	56,000	---	56,000
印刷製本費	45,500	23,760	22,918	9,936	0	---	102,114	---	102,114
Webページ運営費	---	---	---	---	---	---	0	0	0
旅費交通費	134,875	33,000	27,100	19,575	25,225	---	239,775	11,760	251,535
通信運搬費	3,664	900	2,790	900	1,020	---	9,274	44,060	53,334
消耗品費	160,001	51,564	21,287	19,123	35,962	2,910	290,847	63,959	354,806
諸会費	---	---	---	---	---	---	---	3,000	3,000
会議費	---	---	---	---	---	---	---	4,270	4,270
研修費	---	---	---	---	---	---	---	0	0
損害保険料	12,140	2,000	1,000	1,500	1,500	---	18,140	0	18,140
租税公課	---	---	---	---	---	---	---	200	200
施設管理費	---	---	---	---	---	---	---	167,270	167,270
雑費	---	---	---	---	---	---	---	7,500	7,500
減価償却費	---	---	---	---	---	---	---	27,063	27,063
その他経費計	374,180	111,224	105,095	51,034	71,707	2,910	716,150	360,187	1,076,337
経常費用計	613,885	193,286	125,731	137,783	124,820	172,788	1,368,293	552,727	1,921,020
当期経常増減額	11,702	15,835	△ 595	9,640	13,093	△ 2,910	46,765	△ 170,111	△ 123,346

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用について

事業部門は1日一人の作業ボランティア参加を3H～5H程度とし、宮崎県の最低賃金にて計上している。

管理部門と事業部門の事務処理は実時間で、宮崎県の最低賃金にて計上している。



四季をまるごと体験ecoスクール（左：麦刈り、右：脱穀）

《参考》

2018年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	93,000		
賛助会員受取会費	5,000	98,000	正会員:18人×5,000、特別会員:3人×1,000 1人×5,000
2. 受取寄付金			
受取寄付金	134,000		
ボランティア受入評価益	--	134,000	イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄付 他
3. 受取助成金等			
受取助成金		949,000	子どもゆめ基金
4. 事業収益			
自主事業収益		175,700	各プログラム参加費、森の学舎使用料
5. その他収益			
雑収入		500	預金利息 他
経常収益計			1,357,200
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金	259,000		
ボランティア評価費用	--		
人件費計	259,000		各プログラム
(2)その他経費			
諸謝金	62,370		各プログラム
印刷製本費	129,800		ecoスクールチラシ印刷(業者)、他事業はトナー代
旅費交通費	262,900		各プログラム 他事業すべて
通信運搬費	2,700		同上
消耗品費	367,110		同上
損害保険料	42,720		各プログラム
その他経費計	867,600		
事業費計		1,126,600	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金	0		
ボランティア評価費用	--		
人件費計	0		
(2)その他経費			
修繕費	27,900		プリンター保守料 他
旅費交通費	7,000		森づくりボランティア協議会の総会出席 他
通信運搬費	35,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	15,000		文房具、お茶代 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	10,000		総会、学舎キャンプ
研修費	5,000		各種研修、会員プログラム参加充当
租税公課	1,000		印紙、印鑑証明 他
施設管理費	150,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	0		
減価償却費	27,063		チャパーシュレッダー2台
その他経費計	280,963		
管理費計		280,963	
経常費用計			1,407,563
当期正味財産増減額			△ 50,363
前期繰越正味財産額			1,660,206
次期繰越正味財産額			1,609,843
			森の学舎修繕費目的積立¥1,000,000含む

2018年度 特定非営利活動に係る貸借対照表（2019年3月31日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	57,314	
普通預金	935,100	
未収金	544,382	
流動資産合計		1,536,796
2 固定資産		
備品	2,085,000	
減価償却累計額	△2,079,936	5,064
固定資産合計		5,064
資産合計		1,541,860
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	5,000	
流動負債合計		5,000
負債合計		5,000
III 正味財産の部		
基本金	1,660,206	
当期正味財産増加額(減少額)	△123,346	
正味財産合計		1,536,860
負債及び正味財産合計		1,541,860

2018年度 特定非営利活動に係る財産目録（2019年3月31日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	現金手元有高	57,314
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	924,419
普通預金	九州ろうきん延岡支店	5,681
普通預金	ゆうちょ	5,000
未収金	子どもゆめ基金	544,382
流動資産合計		1,536,796
2 固定資産		
機械及び装置	ツッパ・シュレッタ* - (新タ'イ7CSE50-W)	253,050
	ツッパ・シュレッタ* - (大橋GS121GB)	1,330,350
	耕うん機 (HONDAヒ'アツタ)	102,600
	簡易炭窯 (テ'キT105型)	399,000
減価償却累計額		△2,079,936
固定資産合計		5,064
資産合計		1,541,860
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金		5,000
流動負債合計		5,000
負債合計		5,000
正味財産(注)		1,536,860

(注) 正味財産は「資本合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

黒木 伸光



※未収金：子どもゆめ基金＝四季をまるごと体験eこスクール、春を楽しもう。

※預り金：2019年度会費預り（1名）

報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2018年4月1日から2019年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2019年4月13日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 黒木 伸光 

5



四季をまるごと体験ecoスクール（左：塩づくり、右：イカダで河川清掃）

議案Ⅰ． 2019年度活動方針(案)

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) 子どもと保護者の環境教室（e c oスクール（パンづくり編））

地域の小学生及び保護者に対して、パン作りによる食と環境を切り口に、同一の参加者が、麦栽培等の農業体験、そして農業体験を通して自分たちで作った食材料からパン作りを体験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。

10 これまでは、参加率が低かったため2019年度の第9期は、四季をまるごとではなくパン作りに特化したe c oスクールとします。

- 15 ① ネイチャーゲーム：身近な植物・生き物・森林について五感を通して自然の大切さを知る。また、初対面の参加者同士が早く仲良くなるためのきっかけをつくる。
- ② 麦刈り：前年度に、麦蒔きをして育てた麦の刈り取りをする。刈り取った麦は、はさ掛けをして乾燥させた後、脱穀して唐箕で完全に実ともみを分離させる。
- ③ ダンボール・コンポスト：家庭の生ごみから、麦畑の堆肥を作る。
- ④ 塩作り：海水を釜戸で沸かして塩とニガリを採取する。
- 20 ⑤ 小麦粉作り：麦刈り脱穀した麦を、石臼で挽いて小麦粉にする。
- ⑥ パン作り：石臼で挽いた小麦粉・手作り塩・手作りバターを使い石釜でパンを焼く。
- ⑦ 環境学習：なんでもマイレージ、エネルギーのかばん。

- ・開催月：5月～9月（計4回）
- 25 ・参加数：30人（県北地域の小学生3年生から6年生と保護者）
- ・場所：森の学舎
- ・助成：子どもゆめ基金
- ・外部講師：山下みよ子氏（ダンボールコンポスト）※宮崎ダンボールネットコンポストワーク協会

30 e c oスクール参加者に参加を呼びかけ、スタッフも一緒になって収穫した小麦を麦種として11月に畑に蒔きます。麦畑で育てた小麦は次年度のe c oスクールで使用します。

(2) 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

35 2018年度の四季をまるごと体験e c oスクールにて椎茸菌駒打ちした原木の本伏せを実施します。

2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

40 (1) 妖精の森

2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

45 (2) (仮称) 森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動

手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢（松瀬川と称す）を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを行います。

50 整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドを作ります。

- ① 放置されている里山の平坦な部分の樹木伐採や枝打ちを行い、伐採した樹木や丸太と支柱を資材として里山に登る歩道を整備して体験型環境学習の広場作りをする。
- ② 里山から松瀬川に下るために樹木伐採や枝打ちを行い、伐採した樹木や丸太と支柱を資材として歩道を作る。
- ③ 必要に応じて、五感で四季を楽しめる広葉樹を補植する。

本年度は、上記①の活動を行い、②と③については次年度以降の活動とします。会員のほか、ボランティアや地区の住民、企業等に呼びかけを行い、上下流の協働による森林づくりを行い、相互交流、連携の強化を図ります。伐採した樹木の一部は、薪としても活用します。6月～12月の期間に、5回実施します。

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

(1) 川を活用した自然体験交流（川をたのしく親しもう）

ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し自然と自分が一体である、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ自然や里山等の大切さを、体験を通して学びます。お楽しみとして、竹レールでの流しそうめんをお昼ご飯とします。

① ネイチャーゲーム・川あそび：川をたのしみ親しむために、ネイチャーゲームを川で実施し、川の自然と人間生活が密接に関係していることを学習する。川の音を心で感じ取るネイチャーゲームを実施する。参加者を複数のグループに分けて、それぞれのグループに指導者がつく。各グループが、異なる川あそび（笹舟流し・川を覗く・川虫を探すを予定）を時間単位でローテーションしながら体験する。

② 川の生きもの探し：石に付いている川虫を網ですくい、箱メガネを使ってエビや魚を網で捕ったりする。岸辺に川の生き物のパネルを用意して、すくった川虫や捕ったエビや魚の名前を確認する。この体験を通して自然の豊かさや大切さを実感してもらう。このプログラムでは、ライフジャケット着用とスタッフの安全確保が必要となる。

③ アメンボウの旅：アメンボウのように手足を大きく広げ、川の上流から下流へ流れる。この体験を通して、川（水）の楽しさと親しみをもってもらう。このプログラムでも、ライフジャケット着用とスタッフの安全確保が必要となる。

④ 流しそうめん：川での活動が終わり着替えをして、流しそうめんを昼食とする。

・開催月：7月

・参加数：10家族30人（子ども過半数以上）

・場所：森の学舎と五十鈴川

・助成：子どもゆめ基金

・雨天時：川で予定していたプログラムを一部変更して室内中心で実施する。

(2) 森を活用した環境学習（昆虫カメラマンに挑戦）

身近な昆虫や植物について興味・関心をもって追究する活動を写真撮影と昆虫説明を通して、昆虫の成長過程と体のつくりを理解し、生物を愛護する態度を育て、昆虫の成長のきまりや体のつくりについての見方や考え方もつてすることができます。そうすることで、自然を愛する心や環境保全への関心を高めることにつなげることが期待できます。

① 昆虫撮影：森の学舎グラウンドで、昆虫を観察（昆虫の生態や名前の由来の説明）をして、参加者が持参したデジタルカメラで昆虫写真を撮る。昆虫の写真を撮る際には、写真写りの良い構図を考えるはずであり、そのことがしっかりと昆虫を観察することにつながる。

② お気に入りの一枚：参加者の撮った昆虫の写真の中で一番気に入った写真を決める。後日に、簡易なフォトフレームに収めて参加者に発送する。また、撮影した写真については、プロジェ

クタで投影して指導者が個別評論と総評をおこなう。

③ 新開孝さんの昆虫写真のパネル展示をする。

- ・開催月：10月
- ・参加数：子ども15人（保護者は付き添い参加とする）
- ・場所：森の学舎
- ・助成：子どもゆめ基金
- ・外部講師：新開孝氏※昆虫写真家

10 (3) 竹を活用した里山体験（森のエコクッキングとドングリ育て）

15 竹は、日本各地に広く分布し、昔から身近な資材として生活に利用されてきました。しかし、近年、人々の生活が洋風化したこと、プラスチック等代替材が登場したこと、安価な輸入品が増加したことなどにより、竹材、タケノコの国内生産量は減少傾向にあります。そのため、国内には管理不足の竹林が多く見られるようになりました。子どもの森でも、森の学舎グラウンド上斜面の荒廃した竹林の整備を進めてきました。

竹はバイオマス資源であり、その利活用の推進は、低炭素社会の実現に貢献することを、エコクッキングなどを通して学習します。

20 また、ドングリ苗木の育て方を通して、樹木が、私たちの生活において排出された二酸化炭素を吸収し、私たちの生活に必要な酸素を供給してくれていること理解し、山に植樹するための苗木を自宅でドングリから育てます。参加者が育てたドングリの苗木は、数年後に地域の山への植樹へと発展させる予定です。

- ① 竹の飯ごうと器や箸作り：竹で食器等（飯ごう・食器・箸・鍋）を、参加者自らが作る。
- ② 竹の食器等を使ったクッキング：参加者が作った竹飯ごうでの炊飯と竹鍋でのおかず作りを行なう。
- ③ ドングリポット：竹を玉きりにして節を利用した竹のポットに、腐葉土を入れてドングリを植える。竹のポットは参加者が自宅に持ち帰り苗木に育て山へ戻す。

- ・開催月：12月
- ・参加数：10家族25人（子ども過半数以上）
- ・場所：森の学舎
- ・助成：子どもゆめ基金

35 (4) 春の野草を活用した里山体験（春を楽しもう）

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識と認識してもらいます。

- ① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮する。
- ② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。参加者の五感を使った活動とするために、受身の受講とせず、スタッフと一緒に調理をして交流を図り、印象を強く残すように配慮する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮する。

- ・開催月：2020年3月
- ・参加数：10家族25人（子ども過半数以上）
- ・場所：森の学舎

- ・助 成：子どもゆめ基金
- ・外部講師：成迫平五郎氏（野草観察）

4. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

5 地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきています。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つけ方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築することの必要性があります。市民活動の活性化に関わる企画やコーディネート等、何らか携わることができればと考えています。

5. 活動の情報発信・啓発のための事業

15 活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

(1) Webサイトの運営

20 子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、Webページでは発信しづらい細かい情報は、facebookで発信していきます。

(2) 機関紙の発行

25 子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信16号」を発行することで情報発信をします。

(3) 事業案内チラシの作成

30 宮崎県や関係行政機関等の後援を依頼して、それぞれの事業を開催する3ヶ月前までに、新聞社へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布を行います。

6. その他目的を達成するために必要な事業

(1) ビオトープ

35 ビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっていきます。また、ビオトープのミニ田んぼで、もち米を育てることにします。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

40 ecoスクール（パンづくり編）で、水辺のいきもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行います。

40 ビオトープの様子は、WebページやFacebook、機関誌で紹介していきます。

(2) 学舎キャンプ

45 会員と日頃お世話になっている活動サポーター（協力者）の親睦を図るため、森の学舎で一泊二日のお楽しみ会を開催します。

45 竹を活用してのエコクッキング、星座観察、雑木林の視察等の内容が考えられますが、その詳細については、今後理事会等で決定したいと思います。

- ・開催月：11月頃
- ・場 所：森の学舎

(3) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のカンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行なってきました。そして、2009年度は、セブン-イレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のカンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目をされています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしていきます。初夏と秋にグラウンドと周辺の草刈りを実施します。他に、破損した設備等があれば修繕などを行います。

- ・グラウンドと周辺の草刈り実施月：5月、7月、10月、他必要に応じて
- ・道具ミニ倉庫の制作（竹を一部資材として活用する）

(4) 子どもの森が加盟する団体

2019年度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。

今年度も、可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

7. 助成について

2019年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	ecoスクールパンづくり編	282千円（申請） （確定）217千円
		川をたのしく親しまう	143千円（申請） （確定）120千円
		春を楽しもう	88千円（申請） （確定）81千円
		ボクは昆虫カメラマン	90千円（申請） （確定）83千円
		森のエコクッキングとドングリ育て	88千円（申請） （確定）81千円
森林づくり活動	宮崎県森林環境税	（仮称）森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動	266千円（申請中）

黄色いレシートキャンペーンは、これまで通り「ホームワイド財光寺店」「イオン日向店」「マックスバリュー南延岡店」「ホームワイド出北店」に登録します。また、2020年1月にマックスバリュー南延岡店、2月にイオン日向店それぞれの店舗におけるキャンペーン協力に参加したいと思います。

8. 2020年度以降の活動

活動の拡大充実と活動資金獲得を目的として、将来の活動企画を進めていきます。ネイチャー工作の一環としてコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。

5

議案Ⅱ. 2019年度活動計画書(案)

2019年度 特定非営利活動に係る活動計画書
(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

科目	金額		備考	
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	83,000	88,000	正会員:16人×5,000、特別会員:3人×1,000 1人×5,000	
賛助会員受取会費	5,000			
2. 受取寄付金				
受取寄付金	124,400	124,400	イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄付 他	
ボランティア受入評価益	—			
3. 受取助成金等				
受取助成金		848,300	子どもゆめ基金	
4. 事業収益				
自主事業収益		114,600	各プログラム参加費、森の学舎使用料	
5. その他収益				
雑収入		100	預金利息 他	
経常収益計			1,175,400	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1)人件費				
賃金	245,000	245,000	各プログラム	
ボランティア評価費用	—			
人件費計	245,000			
(2)その他経費				
諸謝金	66,730	892,900	各プログラム	
印刷製本費	28,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)	
Webページ運営費	17,500		森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動	
旅費交通費	133,225		各プログラム 他事業すべて	
通信運搬費	7,080		同上	
消耗品費	370,425		同上	
損害保険料	24,940		各プログラム	
その他経費計	647,900			
事業費計				
2. 管理費				
(1)人件費				
賃金	0	0		
ボランティア評価費用	—			
人件費計	0			
(2)その他経費				
修繕費	31,000	373,230	プリンター保守料 他	
旅費交通費	11,000		森づくりボランティア協議会の総会出席 他	
通信運搬費	44,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯	
消耗品費	63,000		文房具、お茶代 他	
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会	
会議費	4,000		総会、学舎キャンプ	
研修費	10,000		各種研修、会員プログラム参加への充当	
租税公課	200		印紙、印鑑証明 他	
施設管理費	197,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代)、道具ミニ倉庫 他	
雑費	7,500			
減価償却費	2,530		チャパーシュレッダー1台	
その他経費計	373,230			
管理費計				
経常費用計				1,266,130
当期正味財産増減額			△ 90,730	
前期繰越正味財産額	1,536,860		1,660,206	
次期繰越正味財産額	1,446,130		1,609,843	

各プログラムとは下記の6プログラム

「ecoスクール(パンづくり編)」 「川をたのしく親しもう」 「昆虫カメラマンに挑戦」 「森のエコッキングとドングリ育て」 「春を楽しもう」 「森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動」

※会費 正会員：5,000円(ただし特別会員は1,000円) 賛助会員：5,000円

特別会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。

※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。

5

2019年度事業別活動計画書(案)

科目	ecoスクール(パンづくり編)	川をたのしく親しもう	昆虫カメラマンに挑戦	森のエコクッキングとドングリ育て	春を楽しもう	森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動	森の学舎整備(ビオトープを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益										
1. 受取会費										
正会員受取会費	—	—	—	—	—	—	—	—	83,000	83,000
賛助会員受取会費	—	—	—	—	—	—	—	—	5,000	5,000
2. 受取寄付金										
受取寄付金	—	—	—	—	—	—	—	—	124,400	124,400
3. 受取助成金等										
受取助成金	217,000	120,000	83,000	81,000	81,000	266,300	0	848,300	—	848,300
4. 事業収益										
自主事業収益	45,000	21,600	12,000	18,000	18,000	0	0	114,600	0	114,600
5. その他収益										
雑収入	—	—	—	—	—	—	—	—	100	100
経常収益計	262,000	141,600	95,000	99,000	99,000	266,300	0	962,900	212,500	1,175,400
II 経常費用										
(1)人件費										
賃金	126,000	41,000	19,000	34,000	25,000	0	0	245,000	0	245,000
人件費計	126,000	41,000	19,000	34,000	25,000	0	0	245,000	0	245,000
(2)その他経費										
修繕費	—	—	—	—	—	—	—	—	31,000	31,000
諸謝金	14,730	0	22,000	0	10,000	20,000	—	66,730	—	66,730
印刷製本費	28,000	0	0	0	0	0	0	28,000	—	28,000
Webページ運営費	—	—	—	—	—	17,500	—	17,500	—	17,500
旅費交通費	36,625	28,150	29,700	18,150	20,600	0	0	133,225	11,000	144,225
通信運搬費	1,380	0	5,700	0	0	0	0	7,080	44,000	51,080
消耗品費	32,705	55,050	7,340	30,050	26,480	198,800	20,000	370,425	63,000	433,425
諸会費	—	—	—	—	—	—	—	—	3,000	3,000
会議費	—	—	—	—	—	—	—	—	4,000	4,000
研修費	—	—	—	—	—	—	—	—	10,000	10,000
損害保険料	7,560	2,400	1,260	1,800	1,920	10,000	0	24,940	0	24,940
租税公課	—	—	—	—	—	—	—	0	200	200
施設管理費	—	—	—	—	—	—	—	—	197,000	197,000
雑費	—	—	—	—	—	—	—	0	7,500	7,500
減価償却費	—	—	—	—	—	—	—	—	2,530	2,530
その他経費計	121,000	85,600	66,000	50,000	59,000	246,300	20,000	647,900	373,230	1,021,130
経常費用計	247,000	126,600	85,000	84,000	84,000	246,300	20,000	892,900	373,230	1,266,130
当期経常増減額	15,000	15,000	10,000	15,000	15,000	20,000	△ 20,000	70,000	△ 160,730	△ 90,730

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用については、活動計画書には反映させませんが、活動計算書(決算報告)では計上させます。

10 ※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、各プログラム(ecoスクール(パンづくり編)、川をたのしく親しもう、昆虫カメラマンに挑戦、森のエコクッキングとドングリ育て、春を楽しもう)以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任でお願いします。(ご自身の加入している損害保険での対応をお願いします)

15

議案Ⅲ. 役員改選(案)

役職	氏名	就任期間	報酬について
理事長	横山 謙一	2019年4月1日～2021年3月31日	報酬無
副理事長	鶴戸 隆司		
理事	井澤 光一		
	工藤 恵理香		
	横山 純子 石田 加奈子		
監事	佐藤 伸光		



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-95-7800 携帯：080-2696-5180

FAX 0982-63-0009

<http://www.kodomonori.info>

office09@kodomonori.info

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonori>

協働創出市サイト <http://kyoudou.info>